

JCに入会して良かった事



高山 晃一
高山産業株式会社
取締役副社長

岡山青年会議所に入会させて頂き研修の半年間、「コップの水を空にして来い」、「とにかく参加しろ」と言われ続けてきました。研修委員では先輩方から、岡山JCや郷土岡山への熱い思いを拝聴し、とても新鮮で心の中にストンと落ちてきました。またアトラクション、クリスマス家族会の企画を行っていくうち、参加しなければ取り残されていくような不思議な感覚になりました。サマコンや全国大会も会場に行かなければ、あのJC特有の雰囲気は感じられません。研修を終えた今、改めて振り返ると、半年間言われ続けてきた言葉の意味が素直に納得できました。そして何より、かけがえのない仲間を手に入れました。半年間は家族と過ごす以上の時間を共に過ごしてきましたから、この仲間は一生の宝物にしていきたいと思えます。この半年間の学びを今後の青年会議所活動に活かしていきたいと思えます。今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願ひ申し上げます。



竹本 幸史
株式会社 SWITCH WORKS
代表取締役

2015年7月に入会し、早いもので6ヶ月が過ぎようとしております。そんな最中、今思うことは、岡山青年会議所は「真の学び舎」であった、ということです。私は、新会員の中でも、現役会員の中でも最も年上の昭和51年生まれです。誰よりも多くの体験をしてきている状況で入会いたしました。そんな私でも、今まで体験してこなかった教育背景に裏付けされたプログラムを受講し、たくさんの気づきと発見がありました。この多くの「刺激」は、私自身が飛躍的に成長するきっかけとなりました。これもひとえに会員研修委員長をはじめとしたスタッフ皆様の尽力のおかげです。そして、この期間中、励まし・支えあい、時には叱咤激励があった同期12名の力によるところが非常に大きく、生涯付き合える最高の仲間に出会ったことがありました。6ヶ月を振り返り改めて思うことは、今までは周囲の方に成長機会を作っていたいただきました。これからは、自分自身も成長機会を作れるように、更には、他者の成長機会への刺激にもなるよう精進してまいりたいと思えます。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ致します。

Junior Chamber International Okayama 公益社団法人岡山青年会議所 入会のご案内



私たち公益社団法人岡山青年会議所は、20歳から40歳までの次世代を担う若きリーダーが集う組織です。地域社会の発展のため、次世代のまちづくりのために青年会議所の活動を通じ、幅広い交流範囲の様々な人との「出会い」や「学び」、「成長」を繰り返します。地域社会や組織において、より優れたリーダーとなるための切磋琢磨を重ね、より豊かなまちづくりと人づくりを目指します。皆様もぜひ私たちと一緒に岡山青年会議所で、新たな可能性にチャレンジしましょう。

年齢・資格 満20歳以上39歳以下 (H6.1.1生～S50.1.1生) の品格のある男女
募集期間 随時募集しております。詳しくは、下記事務局までお電話にてご連絡ください。

入会に際して必要なものです

- 入会申込書(推薦者に署名と捺印をもらうこと)
- 履歴書
- 入会誓約書(推薦者に署名と捺印をもらうこと)
- 入会承諾書
- 作文 題目「岡山JC入会にあたって」※万年筆またはボールペンで、楷書で記入のこと ※700字以上
- 会社謄本 ※資格のみで正業に従事する場合は、資格者証の写し
- 本人の住民票
- 写真 ※縦4cm横3cm 4枚(うち一枚は履歴書に貼付) ※白黒写真ネクタイ着用・スピード写真不可

〈事務局〉 TEL: 086-223-0938 FAX: 086-225-0500 E-mail: info@jci-okayama.com
〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル6F

2016年度 岡山JCホームページ・facebook

岡山JCではホームページでも情報を発信しております。事業紹介や会員拡大情報など随時更新しております。お気軽にホームページをご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www.okjc.org/2016/>



facebook

<https://www.facebook.com/okjc.org>



2016年度 広報誌「暖流」新春号 Vol.1

- 発行日/平成28年1月14日
- 発行/公益社団法人岡山青年会議所
〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル6F
TEL:086-223-0938 FAX:086-225-0500
URL <http://www.okjc.org/2016/>
E-mail info@jci-okayama.com
- 発行責任者/公益社団法人岡山青年会議所
岡山JCの魅力発信委員会 委員長 上神 健治
末長 一範 難波 秀明 藤井 大温
安部 真良 芦田 香奈子 安定 あい 河野 初仁
佐藤 史成 高山 晃一 竹本 幸史 難波 宏行
- 印 刷/株式会社岡文館印刷所

★次号は4月発行予定です。



環境に配慮し、古紙/再生配合率100%の再生紙と植物性大豆インキを使用しています。



暖流

VOI. 1
2016.JANUARY
~DANRYU~

OKAYAMA JC REPORT DANRYU 2016

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL OKAYAMA

題字: 佐野 範一



対談

一億総活躍担当大臣

加藤 勝信

公益社団法人岡山青年会議所
第66代理事長

佐野 範一

PICK UP ■ キッズビジネスパーク ■ キャンプ事業 ■ うらじゃ ■ 講演会



公益社団法人岡山青年会議所
Junior Chamber International Okayama

URL <http://www.okjc.org/2016/>
E-mail info@jci-okayama.com

2016年度 理事長年頭所感



公益社団法人岡山青年会議所
2016年度 第66代理事長

佐野 範一

新年あけましておめでとうございます。

私は公益社団法人岡山青年会議所2016年度第66代理事長を務めます佐野範一と申します。

2015年は、創立65周年を迎えまた一つの区切りの年であり輝かしい年となりました。2016年、公益社団法人岡山青年会議所は新たな一歩を踏み出し、新たな挑戦に向け『Change Our World~郷土を変える疾風となれ~』をスローガンに掲げ、先輩方がこれまで築いてこられた誇りある歴史と伝統の礎のもと、メンバー一人ひとりの成長、そして愛する郷土「おかやま」から必要とされる団体であり続けるために、『まちづくり』ができる『ひとづくり』を使命とし、さらなる進化に向けメンバー全員でJC活動・運動に邁進して参ります。

戦後我が国は先人たちの不断の努力によって、先進国へと急激な経済成長を遂げるとともに、生活向上にともない国力とも言える人口も増加の一途をたどってきました。我々世代は、安定成長期と言われる豊かな環境で幼少期を過ごす一方、激化した受験競争やバブル経済の崩壊による就職氷河期と言われる就職難の時期も経験してきました。2004年をピークとして、我が国の人口は減少傾向に向かい、今後も急速に少子化・高齢化の傾向が進んでいくことが予測されています。その結果として、生産年齢人口の減少、社会保障制度や公的年金制度の問題、雇用問題など、我が国の将来への不安を増大させています。

また、SNSをはじめとするコミュニケーションツールの発達などによる人間関係の希薄化や国際社会の不安定化にともなう国家間の争い、国際的なテロの恐怖など、私たちの将来を不安に思わせる要素も溢れています。このような社会情勢の中で、時代の恩恵と厳しさを経験してきた私たちが、責任世代と呼ばれる青年期を迎えています。

我々は、決して現実から目を背けることなく、今置かれている状況を直視することから始めなければなりません。まずは、目の前の現状を正しく認識し、将来起こりうる状況を予測し、できることを考え、行動する。いまを生きる当事者として問題を認識し、問題に対する責任を果たしていく。『Change Our World』とは、まず我々が変化に対応するのではなく、変化を起こす側へと変わることです。その結果、過去を変えることはできなくても、未来を変えることはできるのです。

最後になりましたが、関係各位におかれましては公益社団法人岡山青年会議所に今後とも多大なるご支援ご協力いただきますことを心よりお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感



岡山県知事

伊原木 隆太

すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き活き岡山」を目指して

新年あけましておめでとうございます。

年頭に当たり、公益社団法人岡山青年会議所の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年11月に開催した第1回おかやまマラソンには、全国各地から1万4千人を超えるランナーに参加いただきました。大会ボランティアをはじめ、熱い声援を送っていただいた方々、ご協賛ご支援いただいた企業、団体が「走る・みる・支える」とさまざまな形で一体となり、地域に元気と感動をもたらす大会となりました。ご協力いただいたすべての皆様に心からお礼申し上げます。

昨年も、私が目指す「生き活き岡山」の実現に向け、本県の未来に好循環をもたらす「教育岡山」の復活、「地域を支える産業の振興」など重点戦略を中心に施策を着実に推進してまいりました。教育岡山の復活については、県警察本部に設置した学校警察連絡室などの取り組みにより、非行率が前年に比べ大幅に減少しました。一方、学力の向上については、全国調査の結果から、小学校は全国の平均正答率との差が縮小するなど一定の成果は見られたものの、中学校は依然として厳しい状態にあります。

また、産業の振興については、本県へ本社機能を移転した企業が、優遇税制などを受けられる国の支援制度の全国初の認定を受けるなど、この3年間で誘致企業の投資額は1,100億円を超え、2,000名近くの雇用を創出することができました。

今年は、晴れの国おかやま生き活きプランに掲げる行動計画の最終年であると同時に、人口減少問題を克服し、本県の持続的な発展を目指す「おかやま創生」の取り組みを本格的に展開する年となります。教育と産業という2つの最重要課題については、引き続き、プランに基づき着実に進め、喫緊の課題である人口減少問題については、「おかやま創生総合戦略」に盛り込んだ本県の強みを生かした特色ある施策を県民一丸となって取り組んでまいります。

引き続き、すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き活き岡山」の実現に向け、これまで蒔いた種が花を咲かせ、実を結ぶよう全力で取り組んでまいりますので、皆様には、一層のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。



岡山市長

大森 雅夫

皆様方におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、平素から市政への格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年は、1万4,000人を超えるランナーの皆様をお迎えして11月に開催した「第1回おかやまマラソン」で大成功を収めるとともに、県庁通り・西川緑道公園筋での「回遊性向上社会実験」の実施や新市民病院の開設、さらにはESDアワードの創設など、幅広い分野で岡山市の魅力や暮らしやすさのさらなる向上につながる様々な取組を積み重ねることができました。改めて、皆様方のご支援、ご協力に厚くお礼申し上げます。

さて、超高齢社会の到来に直面し、「人口減少克服・地方創生」が国を挙げてのテーマとなる中、岡山市がこの先も持続可能な発展を続けていくためには、これまでの取組を通じて生まれつつあるまちづくりへの期待の高まりといった前向きな変化を、確かな動きとして前に進めていくことが重要です。

岡山市では、本年も、「岡山芸術交流 Okayama Art Summit 2016」や「第2回おかやまマラソン」などのイベントによりもたらされる賑わいをまち全体の活性化へとつなげるための取組に力を注ぐとともに、「岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく岡山の強みを活かした産業振興策をはじめ、新しい総合計画の策定や新市民会館の基本計画の策定、路面電車の岡山駅前広場乗入れに向けた検討など、岡山市の将来を見据えた取組もしっかりと進めてまいります。

申年は、「知恵が勝る(まさる)」とも「災いが去る」とも言われる吉兆の年であり、本年も市民の幸せと岡山市のさらなる飛躍のため、地域の青年経済人である皆様方と知恵を出し合いながら着実に政策を推進してまいり所存ですので、市政への一層のご支援、ご参加を賜りますようお願い申し上げます。

年頭に当たり、皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

年頭所感



岡山商工会議所
第59代会頭

岡崎 彬

2016年の新春を迎え、公益社団法人岡山青年会議所の皆様のご健勝とご繁栄を謹んでお慶び申し上げますとともに、平素から当所事業活動につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。さて、昨年を振り返りますと、我が国経済は、アベノミクス効果に、原油・エネルギー価格の低下、さらには訪日観光客増加による消費増も加わり、15年ぶりに株価が2万円台に乗るなど緩やかな回復を見せました。

こうしたなか、岡山では、一昨年末に開業したイオンモール岡山により駅前周辺に新たな賑わいが生まれています。また、まちなかでは「岡山後楽園 春の園遊会」や旭川周辺で水辺を楽しむ「ミズベリング岡山旭川」、1万4千人のランナーによる「おかやまマラソン」などが初めて開催され、一層の賑わいに向けた取り組みが進みました。しかしながら、一方では人口減少・高齢化、円安による仕入価格の高止まりや経済のグローバル化といった構造変化に直面し、先行きに懸念を抱いている企業も少なくありません。

当所としては、このような状況を踏まえ、海外からの観光客も含めた交流人口の拡大を目指すほか、歴史や文化、農産物などの地域資源を活用した岡山ならではの魅力の創出に全力で取り組み、政令指定都市にふさわしい風格と活力あるまちづくりを目指してまいります。また、きめ細かい経営支援体制の強化や販路開拓・海外展開の促進などを通じて、中小・小規模企業においても、真の景気回復を実感できるよう全力を傾注してまいります。

現在、政府の掛け声のもと全国津々浦々で地方創生戦略が策定されておりますが、今後、それぞれの地域がその戦略の実現に向けて一斉に動き出すこととなります。当岡山地域におきましても、これからの岡山を担う若い方々が、変化を恐れず、積極果敢に挑戦することが、厳しい都市間競争を勝ち残っていく原動力になると確信しております。

どうか岡山青年会議所におかれましては、佐野理事長のもと「ひとづくり」の風土を大切にされながら、これからの岡山を牽引する若手リーダーを輩出する学び舎として、より一層ご発展されることを祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



公益社団法人日本青年会議所
第65代会頭

山本 樹育

平素より公益社団法人日本青年会議所の運動に多大なるご協力を頂きまして厚く御礼申し上げます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

公益社団法人岡山青年会議所の運動が、佐野範一理事長のリーダーシップのもと、人や自然と共生する成熟した新たな社会システムへの転換を目標として、理想に向けて自ら変化を生み出し、今までの常識にとらわれない新しい価値を社会に創出すべく一年間ご尽力されますことを心より期待申し上げます。

貴青年会議所は、1985年に日本青年会議所第34代会頭として野津喬先輩をご輩出されました他、多くの日本青年会議所役員の方々をご輩出されており、日本の青年会議所運動を強く牽引し続けております。また、地域の発展のために多大なる貢献をもたらされていることに心より敬意を表します。

本年度の日本青年会議所は、「独立自尊の精神と良心が織りなす『心』ある国 日本の創造」を基本理念に、私たち自身が進化の起点となり、人びとを巻き込んだ運動を絶えず創りだし、「心」ある国 日本の実現に向けて邁進して参ります。人生の中で最も輝きを放つ青年期

を生きる私たちが、今しかできない、今だからこそできることを全うし、日本をより良い形で次世代に遺していきましょう。

「心」ある国 日本を創造するためには、地域の再興が必要不可欠です。それぞれの地域において、「志」に対する共感を結集させ、主体者との連携を深め、個別の実情に応じて未来を切り拓いていかなければなりません。貴青年会議所におかれましても、佐野範一理事長をはじめとするメンバーの皆様が、青年会議所運動を通じて地域における貴青年会議所の存在価値を高め、より良い未来への進化の起点となり、多様性と個性を持つ岡山のまちを創り出されることを期待申し上げます。

貴青年会議所のさらなるご発展並びにメンバーの皆様にとって更り多き一年となりますことを祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

年頭所感



公益社団法人日本青年会議所
中国地区協議会 会長

福森 豊

明けましておめでとうございます。また、(公社)岡山青年会議所が佐野理事長の下、66年目の新たな一歩を力強く歩み始められましたことを心より喜び申し上げます。そして平素より、地区のリーディングLOMとして中国地区協議会に対し、格別のご理解とご協力いただいておりますことを、心より御礼申し上げます。

昨今、アベノミクスにより過度の円高やデフレを脱却しつつあり、更なる景気回復に向けて、都心部への一極集中から地方再生に向けた動きが活発になっています。典型的な地方である中国地区も、バブル崩壊以降低迷し続けていましたが、この低迷期からの回復に向け好機である今、65年に渡り地域を牽引し続けてきた(公社)岡山青年会議所には大きな期待がかかっています。ビジネスの中で「ヒト・モノ・カネ」という言葉がありますが、ヒトがモノを産み出し、そのモノがカネを産み出すからこそこの順番になっています。創生期より変わらず、ヒトづくりにご尽力されてきたからこそ、今の大きな転換期に地域で、そして日本全国で活躍される青年経済人を輩出されることと確信しております。

2016年度中国地区協議会では、「共感からつながる中国の実現」というスローガンのもと、15年ぶりに地区内で開催される全国大会に向けて、54の会員会議所の連携を強めて参ります。全国から訪れる2万人近い会員に対し、広島、そして中国の魅力を十分に感じて頂くためにも、中国地区内2000名の会員が一致団結し、おもてなしの心を持って開催に当る必要があります。岡山青年会議所の更なるリーダーシップに期待をしております。

岡山青年会議所は「CHANGE OUR WORLD ~郷土を変える疾風となるために~」をスローガンに掲げられ、流れの速い現代だからこそ、その速さに負けない疾風として、地域を、そして日本を、世界を岡山から変えていく運動を続けてゆかれますことを心よりご祈念しております。今年1年間、どうぞよろしく願い致します。



公益社団法人日本青年会議所
中国地区岡山ブロック協議会
第52代会長

坪井 綾広

新年明けましておめでとうございます。平素は岡山ブロック協議会に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様にとりまして幸福に満ち溢れた一年となりますよう心より祈念致します。また、岡山青年会議所様の先輩諸賢を始めメンバー皆さまにおかれましては66年という永きに亘り歴史伝統を紡ぎバトンを継承されてこられたことに衷心より敬意を表します。

さて、昨年から話題になっている「地方創生」の原動力となる核なるものは市民の能動的な参画意識であります。我々はこの意識を共感で広げていけるよう新しい経済循環を生みだしていかねばなりません。貨幣の無い時代は物と物、サービスとサービス、サービスと物を交換し合いながら、目には見えない精神的な心で人をつなぐ経済を創っていた時代がありました。そこへ物やサービス全てを貨幣で交換できる時代になると、目に見えるものばかりに捕らわれ、新しい価値を生み出せない貨幣中心の経済時代が長く続いていたように思います。それが近年、ネットなどソーシャルメディアを媒介とし、「いいね!」や「シェア」の言葉に代表されるように、知識・関係・信頼・評判といった目に見えないものが資本となり共感で広がる共感経済社会という新たな市場経済が誕生しています。

2016年度岡山ブロック協議会は、そんな目に見えない資本を磨き、利他の心で社会に投資していけるよう、「利他の心から共感が広がる岡山の創造」とスローガンを掲げ運動を参ります。他者を想う利他の心を体現した社会が共感で各地に広がる岡山が実現できるよう全力で邁進してまいりますので、何卒ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

結びに、2016年度佐野理事長率いられます岡山青年会議所様が掲げられた「CHANGE OUR WORLD ~郷土を変える疾風となるために~」のスローガンのもと、「岡山人」の育成とともに、常識にとらわれない新しい価値を社会に創出していくことで、更に必要とされる団体としてご繁栄されますことを切願し、新年のお祝いの言葉とさせていただきます。

新春特別対談

一億総活躍担当大臣 加藤 勝信 × 第66代理事長 佐野 範一



佐野理事長：大変お忙しい中、お時間を頂きありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは一億総活躍担当大臣ご就任おめでとうございます。今回、新設の大臣となりますが、具体的にどのようなことをされるのかお伺いできたらと思います。

加藤大臣：安倍政権は、スタート時からデフレ脱却、経済再生に取り組んできており、その第二幕となります。なんとかデフレ脱却もあと一歩というところまで来た中で、経済においても株価や為替が相当変わってきました。また雇用情勢もよくなってきており、むしろ人手不足という状況もあります。賃金も少しずつ上がる基調が見えてきていますが、なかなかそれが消費の拡大や投資の拡大に繋がっていません。企業も内部留保が増え、経常収支、経常収益が良くなっているにもかかわらず、なかなか経済が上向いた実感が無いのが現状です。そこで、経済再生をさらに進めていくためにも、これまでの三本の矢を一つに束ねて強い経済をつくっていくことが重要だと思います。ただ、日本の構造的な課題として少子高齢化、人口減少という大きな課題があります。これまではデフレ脱却もできないのに、そのような構造改革ができるわけがないと思われていました。しかし、デフレも出口が見えてきましたことで、このような機運の中でなら何かできるかもしれないと思えるようになってきました。そこで、構造的な問題に挑戦をしていこうということになりました。単に人が少なく人口が減少していくという量的なスピードを落とす、あるいは現象を抑制するということだけではなくて、一人ひとりの持っている力を十分発揮して様々なイノベーションが進んでいくことや、様々な商品が生み出されていくなど、様々な方向の発展が進むことが望ましいと考えます。

一億総活躍は、総理の言葉をお借りすると、国民一人ひとりが、若い方もご年配の方も、女性も男性も、障害がある、難病がある、あるいは一回失敗したことがある、そういう方たちが、様々な希望や夢を持って、それを実現していける社会になると、そこから様々な発展が見えてくると思います。その結果、先ほど申し上げた構造的な課題である少子化や、高齢化に対して、様々な答えが見えてくるのではないかと思います。そして、更に希望出生率1.8や、介護離職ゼロという具体的な目標を掲げて、それを乗り越えていくことで一億総活躍の社会をつくっていくことが我々の理念です。

佐野理事長：介護の離職の話や、失敗した人も再度がんばれる社会をとすることは、既存の政策にもありましたが、今回大きく変えようとしているところはどのような点でしょうか。

加藤大臣：これまで様々な施策がありました。例えば介護の話で言いますと、介護保険や介護サービスが使えることを知らなかった。だから自分でせざるをえない、そう思っている方がいらっしゃるのも事実です。国民的視線、視点に立ったとき、しっかりバランスがとれているのかを確認することが、一つのアプローチだと思います。

佐野理事長：現在国会議という形で様々な声を聞かれているのは、そういう声を聞くようにしているということでしょうか。

加藤大臣：そうですね。実際経験をされた方や、様々な分野に精通された専門家の皆さんと意見交換会をさせてもらっています。

佐野理事長：先ほど加藤大臣のお話の中にもありましたが、新たに新三本の矢を発表されました。「強い経済」、「子育て支援」、「社会保障」についても具体的にどういったことをお考えか、お聞かせいただけますか。

加藤大臣：強い経済をつくっていくためには、現在賃金が2年3年続けて上がっていますが、この基調をしっかり続けていくことが重要だと思います。その結果、そのことが強い消費に結びついていくことが理想です。企業も、経常収益が上がり内部留保が史上空前の水準にきているので、それを生産性が向上する投資にどう結びつけていくのが課題となります。その際に、法人税改革や賃金の引き上げ等を企業に要請し、中小企業も利益を上げられるような環境作りが理想です。大企業が、適正な仕入れ価格を設定しなければ、中小企業が収益を確保することができません。そういったことを一昨年から行っていますので、それを継続していこうと思います。

また、地方創生等を通じて、地域の経済を良くしていくことも重要だと考えます。少し視点は違いますが、海外からの旅行者が昨年度に比べて5割以上に近い数字で増加しており、今年度中には2千万人に達しそうな状況です。3年前は800万人でしたから激増しています。そのような環境を上手に利用し、海外からの旅行者をさらに増やしていけば、その分だけ日本での消費が拡大していき、様々なビジネスチャンスが増えていくのではないかと考えます。これまでの金融政策を継続して、必要に応じて機動的な財政政策を行い、今まで打ち込んできた成長戦略を具体的に進めていくことも重要だと思います。そういった効果の中でまず強い経済をつくる、初の国内総生産600兆円を目指します。1997年から523兆円、その後ずっと落ち込んでいきましたが、現在500兆円まで回復してきました。それを600兆円にしていこうというのが目標です。第二の矢は、希望出生率1.8を目指します。今は、晩婚化、未婚化が進んでいます。JCの皆さんも結婚されてない方がいらっしゃるのではないかと思います。結婚したくない方に結婚しろと言うつもりはありませんが、結婚したいけど、なかなか出会いの場がない方、所得や経済的な基盤が安定していないから結婚ができないと思っている方たちを、どう支援していくかを考えなければなりません。そして、結婚して子どもを一人目はつくったけど、保育園もなかなか見つからない、いろいろ大変なことも多いので二人目は欲しいけど無理だとお考えの方も多いと思います。岡山でも待機児童が多いと思います。預けられる環境を整え、それだけではなく子育て中の様々な悩みや、ニーズに公的にどう対応していくかを考えなければなりません。お互いに共助の中でやっていただくもの、家族である程度解決できる問題もあると思います。それぞれがうまく機能する環境をつくることで、現在の出生率は1.42ですが、結婚したい、子供を持ちたいという希望を計算した希望出生率を1.8に上げていくことを目標としています。三つ目の矢は、介護離職ゼロです。自分の両親の介護が必要になり、働いていた娘さんや息子さんが仕事を辞めて介護をすることを介護離職と言います。皆さんの中には介護職や介護施設で働いている人の離職をゼロにするという風に受け止めている方もいらっしゃると思います。それも大切なことですが、私どもが言っているのは、親御さんの介護のための離職をゼロにすることです。ただし、介護現場で働いている人の離職が続くようでは、必要な介護サービスが行われなくなります。結果的に、使えるサービスがなくなれば自らが仕事を辞めて介護をせざるをえなくなります。そういった状況を解消するために、施設や様々な在宅支援といったサービス基盤を厚くしていくことが重要だと思います。また介護現

場で働く人がいない為に十分なサービスが行われていないこともありますので、介護士さんを含めた介護現場で働く人が増える環境づくりをしていかなければならないと思います。そして、介護休業制度の利用率が少ないので、もう少し制度を見直すなどして、利用しやすい環境をつくっていくことも重要だと思います。今までは介護が必要になった時にどうするかという話でしたが、介護が必要にならないようにしていくことも重要だと思います。健康診断をきちんと受けて、大病にならないように対処すること、60歳ないしは65歳で退職しても働く気持ちがある人には就労をする機会をつくること、地域で様々なことをしてみたい方にはそういった機会を提供することで、元気な高齢者をどの様につくっていくかも大事だと思います。

佐野理事長：私の会社でも親の介護を理由に辞めた方が多いので、元気な高齢者が増えて、介護離職がゼロになると非常に助かります。

加藤大臣：親の介護で辞めると会社側も困ると思います。親の介護が必要になってくる世代はちょうど働き盛りの方ですし、退職してしまうことで、ご本人が高齢になった時の年金等が少なくなってしまいます。将来の安心も含めて、介護離職ゼロを実現できる環境をつくっていききたいと思っています。それでも、辞めて親の介護をやりたい方もいらっしゃると思います。しかし、そういう方もよく考えたら、辞めないほうが良いという判断、選択ができる状況はつくっていききたいなと思っています。



佐野理事長：会社でできることは限られていますので、ぜひお願いします。地方創生とも関係があると思いますが、東京などの都心部はアベノミクスの影響で景気が良くなっているところもありますが、岡山はまだまだ実感できていないのが現実です。その点についてはいかがお考えですか？

加藤大臣：岡山県も法人税の税収は非常に伸びています。ということは、企業の所得、地方の企業の所得も上がっているということだと思います。そういう機運の中で、それぞれが地域のビジョンをつくり、地方の戦略を立て、それに取り組んでいくこと、またそれを応援するための新型交付金も今後の予算の中でつくっていきこうと思っていますので、うまく取り入れて頂けたらと思います。岡山は岡山、倉敷は倉敷、という地域の状況をよく理解したうえで、その地域の次の時代が生まれてくることが理想ではないでしょうか。

佐野理事長：岡山市が今後発展していくためには、この流れをどのように活用していけばいいのかがアドバイスがありますでしょうか？

加藤大臣：岡山の利点は何なのか？住んでいる人から見たときには利点に見えないことでも、県外の人が見ると利点に思うものがたくさんあると思います。そういったことはどこの地域にもありますが、岡山の利点のひとつは、災害が非常に少ないという点だと思います。そして、岡山は晴れの国、これも利点のひとつだと私は思います。総理と一緒にシリコンバレーに行ったとき、そこで頑張っている日本の経営者の方々と話をしました。シリコンバレーのいいところは天気がいいところだ、天気がいいと失敗して外に出ても、よし頑張ろうという気になるという話がありました。そういう利点を使って、どう地域を伸ばしていくのか。そして、岡山の桃や葡萄の産出量は決して日本一番ではありませんが、非常に質が高く、お米もまた同様です。そういったものを、岡山は相対的に少ないですが、海外からの旅行者に、食べて頂く、それを輸出につなげていくなど、様々

な組み合わせの展開ができる素地を持っていると思います。そして岡山も倉敷も山陽路にあります。交通網、新幹線、飛行機での利便性もあり、あとはそれをどううまく利用するかということだと思います。



佐野理事長：岡山JCは、40歳までの経営者の団体で、地域の発展のために様々な活動を行っていますが、若手の経営者に求められることは、どういったことでしょうか？

加藤大臣：40歳というと、20歳の頃からデフレを経験しています。皆さんが会社に入り、今の責任ある立場になるまで、常に右肩下がりで、右肩上がらないという時代だったと思います。私たちの入社当時はまだ高度成長期で、今日はダメでも明日はもっといくぞ、と思える部分がありました。ただ、なかなかマインドを変えることは難しいと思います。そこで、我々は3年間まずマインドを変えるためにデフレ脱却に向けてやってきました。何かやろうとするとリスクを取らないと次の展開は生まれてきません。そして、会社の中や、自分の周りの様々な方の話を聞くことで、次の時代がやるべきことがより見えてくると思います。そういう多様性を受け入れる素地は、我々年配者よりも若い人の方が圧倒的に多いですから、いい意味での若さを使って挑戦をして頂きたいと思います。もちろん、家業として培ってきた家訓や、様々なものがあると思います。それらは、歴史の中で培ってきた大事なもので、それを芯骨、背骨にしながら今の時代、そしてこれから来るべき時代にどう対処していくかということにおいては、リスクを取って挑戦していくことだと思います。我々は、そういうリスクを取って挑戦していける環境をつくり、挑戦する人たちを応援していきたいと思っています。しかし、いくら政府が環境を整えても、実際に動くのは企業であり、皆さん一人ひとりです。最後に自分の足で一步踏み出すかどうかは皆さん次第です。JCの皆さんのように横のつながりを持ちながら、俺たちが応援してやるから頑張れよ！という展開ができたなら素晴らしいと思いますし、大変期待しています。その先頭になつていく理事長さんのリーダーシップは非常に大事だと思います。

佐野理事長：失敗を恐れないこと、不況が長かったせいかもしれませんが、失敗を恐れて次の一歩が踏み出せないということも実際にありますので、我々も青年らしく果敢に新しいことに挑戦していきたいと思っています。

加藤大臣：新しい一歩を踏み出すには、年長者の人たちを説得していかなければなりません。説得するためには自分のがめり込めることでなければ、相手を説得できません。できないからではなく、できるためにどうすべきか、という視点でやっていけば、様々な人たちが巻き込まれていくのではないかと思います。

佐野理事長：我々経営者も、日本自体が魅力的であれば、旅行者も増え、その分景気も良くなるかと考えています。景気が良くなれば投資をしようという機運も増えていくと思います。ぜひとも今回のプランが成功してほしいと思いますし、我々も経営者としてしっかりと、一番の地域貢献であるお金を稼ぐことを頑張りたいと思います。

加藤大臣：期待しております。頑張ってください。

佐野理事長：ありがとうございます。

事業年間告知

★第3回 キッズビジネスパーク ～ぼくたち・私たちの夢探し～★

2014年から始めました子供たちの職業体験事業は、2016年におきまして「第3回キッズビジネスパーク～ぼくたち・私たちの夢探し～」と題し、岡山市内小学生3年生～6年生500人を対象に8月下旬に実施を予定しています。子供たちに普段学校、家庭では教わることのない職業体験を通じて未来に夢をもつ力、その夢に向かっていく力を養っていただくことを目的に、また、多くの職業体験をしてもらうことにより将来岡山に必要な人材となるべく、子供たちの成長に繋げることを目的に事業を実施して参ります。



キャンプ事業

2016年の事業として岡山市内の小学4年生～6年生の子供たちを対象として、キャンプ事業の実施を予定しております。この事業におきまして子供たちが共同して活動を行うことで、地域や学校の枠を超え仲間と共に考え力を合わせ、同じ目的に進むことで、仲間とのふれあいの大切さや喜びを感じてもらうことを目的といたします。また、ボランティア面での工夫や、親子で協力して活動することも取り入れることにより、地域の人や家族の絆がどの場面においても、とても重要であることを再認識していただき将来岡山に必要な人材である岡山人育成を目標といたします。



事業年間告知

うらじゃ

今年で、23回目を迎えるおかやまの夏の風物詩となっている「うらじゃ」。昨年は139の踊り連、6250名の踊り子にご参加いただきました。1994年に「共生と融和」をテーマに生まれた「うらじゃ」はこれまで数多くの市民の皆様にご参加いただき、ボランティアスタッフ、踊り連、多くの観客の皆様、岡山市内外の企業に支えられております。

本年も、岡山青年会議所は、うらじゃ実行委員会の総務部会として、また開催支援広告協賛募集事業という形で参画いたします。

本年も、参加される皆様や観客の皆様の思い出の1ページに残るよう、岡山青年会議所一同、一丸となって設営を致しますので、よろしくお願い申し上げます。



講演会

■3月例会 ビジネスセミナー



アップル・ジャパン元代表取締役社長が語る
リーダーとしての自覚
選ばれ続けるリーダーの条件

株式会社コムニカ 代表取締役 講師：山元 賢治

開催日時 平成28年3月2日(水) 19:45～21:30
【受付開始】19:20～ ■セミナー:60分 ■交流会:45分

開催場所 岡山プラザホテル 〒703-8256 岡山県岡山市中区浜2丁目3-12

参加対象 40歳までの方 参加費 無料

■まちづくり講演会

本年度、岡山青年会議所では、市民の方を対象とした、一億総活躍社会の実現、地方創生に関連した、まちづくりをテーマとした講演会を開催致します。

少子高齢化による社会活力の低下、都市化・過疎化の進行は、全国的に見ても、そして岡山も例外ではなく、大きな問題となっております。

そこで、これからの岡山に必要な人材である、自発的に郷土おかやまの事を想い、愛し誇りをもち、郷土のために行動できる人材の育成を目的に開催を致します。

詳細が決まりましたらご案内申し上げますので、皆様のご参加、周知のご協力をよろしくお願い申し上げます。

